

～基本目標に関して～

最初に<多様性を認めあう支え合いのまちづくり>とあることを高く評価する。

年齢・性別・国籍・障がいの有る無し・出自・性的指向・性自認などにかかわらず、武蔵野市に暮らすすべての市民の人権の尊重が必要である。

多様性の尊重は大きな目標である。

差別や排除を無くし、誰もが安心して住み続けられるまちづくりに長期計画調整計画が貢献することを望んでいる。

～施策の体系に関して～

（１）健康・福祉

◆生活困窮者支援の前進

◆一人暮らしの高齢者

ゴミ出し・外出などが困難になる一人暮らし高齢者への支援の充実を図る。

◆看護小規模多機能施設の増設

◆障がい者の住まいの地域での確保

障がいの重度化・高齢化も進んでおり、市内での施設は必要である。

日中活動も可能なグループホームなど地域での住まいの増設を。

施設整備にあたり、医療との連携が重要である。

◆介護保険・国民健康保険の負担軽減

◆生活保護利用者の意思を尊重する対応

意思とは、扶養紹介や無料定額宿泊所入居に関することをさしている。

P32の<貧困の連鎖を断ち切るため・・・伴走型の支援の強化等>が記載されていることを評価するが、全国の制度である生活保護制度への年齢要件の見直しや夏季加算の創設等要望したい。

（２）子ども・教育

◆子どもの権利を活かす教育

子どもは社会で育つことを基本にした教育

◆公立保育園の存在の重要性を認識し、保育の質の向上をすべての保育園でめざす

◆普通学級と特別支援学級を選択できるインクルーシブ教育

P40に<インクルーシブ教育システムの充実を図る>と記載があるが、通常学級と特別支援学級を選択できるようにするため、介助員制度を通常学級で使えることが必要である。

◆中学校の特別支援学級在籍児童への通学支援

小学校段階と同じくスクールバスの利用が望ましい。

◆不登校の児童生徒への支援の強化

義務教育段階の不登校児童生徒への経済的支援の創設を実現していただきたい。

不登校の児童生徒は大幅に増加している。P40に<増加>とあることを評価している。

チャレンジルームは大野田小学校内でなく、保健センターの増築・複合施設整備後の施設内に移転拡充すべきである。

学校改築にあたっては、学校内の決まった場所に自分のクラスに行きづらい不登校児童生徒の居場所をつくるべきである。

- ◆性教育の重視
- ◆学校施設の統廃合は慎重に
- ◆学校給食費の無償化の実施

(3) 平和・文化・市民生活

- ◆多様性を認め合い、尊重し合う平和な社会をめざすことに賛成
婚外子にかかわる課題など「出自」も入れる必要がある。
P44 基本施策1では<多様性を認め合い尊重し合う平和な社会の構築>の文では「出自」が書かれていない。
- ◆差別があった時に苦情処理・是正勧告のできる第三者機関の設置
- ◆男女平等施策は女性専用窓口・相談機関が必要
- ◆パートナーシップ制度利用促進
- ◆外遊びと屋外プールの重要性を活かす
P51<市民の誰もがスポーツを楽しめる環境の整備>で<屋外プールの廃止を支持する市民アンケートの結果も考慮し>とある。
日陰の必要性は高まっているが、外遊びの必要性も考慮していただきたい。
- ◆エレベーター設置など、コミセンのバリアフリー化を急ぐ

(4) 緑・環境

- ◆自然エネルギー・再生可能エネルギーをさらに生み出し活用を図る
- ◆緑と生物多様性を発展させる取り組み
- ◆古い家具などを再生させるリサイクル作業所のエコリゾートへの設置
- ◆動物愛護の推進にかかわる体制の推進
P60 で<要支援動物の相談支援体制>が記載されているが、猫の譲渡会の機会の充実などお願いしたい。

(5) 都市基盤

- ◆地下水の水質の維持管理と保全
P66
水道水の水質に関して、有機フッ素化合物等の水質検査の継続的な実施が記載されていることを評価するが、農薬・重金属・放射性物質も、人体や環境に有害であり、記載が必要ではないか。
- ◆都営水道との一元化の計画の見直し
- ◆誰もが使える交通機関の整備
P67 <市民の移動手段の確保>があるが、高齢や障がいなど、さまざまな理由で一人での移動が困難になるケースがある。
ひとりであっても通院・買い物・金融機関など、支援が可能な体制の充実が必要である。
段差をなくすなど、公園や道路のバリアフリーを進め、安全な場所を実現する。
- ◆安心して住み続けることのできる住環境

武蔵野市の家賃は他自治体より高額である。

もちろん、都心へのアクセスのしやすさや大規模公園の存在など、本市ならではの環境もあるが、家賃補助制度は必要ではないか。

◆陥没事故の続く外環道は大深度地下工法による工事の見直しを

(6) 行財政

◆常設型住民投票制度は必要

市民の中で差別のない、使いやすい制度であることをのぞむ。

◆市有地の有効活用

～財政計画に関して～

◆長期財政シミュレーションの基金と市債の動向については、参考であっても記載は慎重であるべきと考える。

武蔵野市では、基金が毎年増加し、多摩地域での一人あたりの基金額は1位となってる。毎年の予算執行も100%を超えないので、基金は今後も増える可能性が高い。

P88の位置づけのところに<掲載方法や位置づけが課題となっていた>とあり、私が基金に関して、これまで述べてきたことに配慮されていると感じているが、参考の中で、<基金残高の大幅な減・市債残高の大幅な増は避けることができない見込み>は再考して抑制的にすべきではないか。